

## ■ 垂直統合（小中一貫型小学校・中学校）

### ① ICTの活用で生徒数が少ないことの課題は改善できるか

- ・現在、導入期であり、先生のスキルやWi-Fi環境の問題は、将来的には解決していくと考えられる
  - ・27名学級を半分に分けてICTを活用した授業を行ったところ、画面越しに説明も意見交換もできるものの、3～4日たつと集中力が落ちてしまうという課題があった（小学校）
  - ・オンラインでの意見交換は意見が言いづらいところがある（大人もオンライン会議で同様の感覚を持つのでは）
- **教育効果の面で課題がある**
- ・授業の前後に、雑談する機会がなくなってしまう  
（コロナ禍で大学生が孤独を感じており、主な理由にオンライン授業を上げている）
- **人間関係の面でも不利な面がある**

**ICTを活用した教育を実際にやってみると、対面の重要性を再認識する結果となっている**

### ② 小・中の教員連携で教員が少ないことの課題は改善できるか

- ・中一ギャップの解消に効果的
  - ・小学校5～6年生が中学校の先生の専門的な授業を受けられることには意味がある
- **教員連携の意義は大きい**
- ・校舎が離れていると先生の移動が大変
  - ・生徒理解が追い付かないと、きめ細かい指導にはなりにくい（授業だけやればいいということではない）
  - ・免許の問題があり、すべての先生が連携できるわけではない
  - ・時間割の問題（小学校45分・中学校50分）があり、同じ時間枠で動けない
  - ・年間の履修時間が違う
  - ・先生の空き時間は、決して多くない
- **導入には課題が多い**

**実際にどのような連携ができるかを想定すると、極めて限定的になる可能性が高い**

### ③ 合同部活動で部活の選択肢が少ないことの課題は改善できるか

- ・現在、3つの部活動が合同になっている中学校もある
  - ・月～金曜日は学校単位、土～日曜日は合同という運用になっている  
（平日にバスやタクシーを使って他校から毎日移動することは不可能）
  - ・来年度の新入生で北杜市内の他学区から、10数名が部活動やクラス分けがある学校に行きたいという理由で入学を希望する中学校もある
- **一定の規模のある学校を選ぶ生徒・保護者が増えている**
- ・審議会は、部活動の地域移行の流れをくんで、部活を理由に統合の方向性を決めるのは違うと整理している
  - ・現実的にどうなるかということも、不明瞭な状況となっている
- **部活動を根拠に方向性は決められない**

**当面、平日の部活は各校での実施になりそうだが、先行きは見通せない**

## ■ 水平統合（複数の中学校の統合）

### ① 小規模校の良さが失われることの課題は改善できるか

- ・ある程度の学校規模が確保できれば、県のはぐみプランの恩恵が受けられる
- **統合することによって1学級の生徒数を減らせる場合もある**
- ・教科によっては、ある程度の人数がいた方が良く考えられる（音楽等）
  - ・はぐみプランを利用し、本来2学級のところが3学級になっており、さらに、加配の先生もきている。その効果として、英語の授業に免許を持った先生2人をあてることができている。状況によって2人で指導したり、基礎と応用に分けて習熟度に応じた指導を行っている中学校もある
- **少人数の単級よりも恵まれた授業を受けられる可能性がある**

**はぐみプランも含め、学校規模が大きくなれば、多様な指導形態を選択しやすくなる**

### ② 地域と学校の関係が切れてしまうことの課題は改善できるか

- ・昔から地域とのつながりはあったかと思うが、近年、コミュニティスクールの人材バンク的な面から関わりやすくなっている

**学区が広がるが、その中で改めて地域と学校の間をつくらなければならない**

## ■ 望ましい学校規模について

### ① 1学年6～9学級（1校を基本とする水準）

- ・小・中のギャップが大きすぎる
  - ・通学距離が違いすぎる
- **1校は厳しいのでは**

### ② 1学年3～5学級（2校を基本とする水準）

- ・県内をみると、甲府・甲斐・中央・笛吹は1学年5学級以上の学校がある
  - ・クラス替え、部活、他地域との交流の観点から、1学年5学級くらいの規模が良いと思う
  - ・通学の課題は、スクールバスをきちんと整備すれば、十分に改善できるレベルと思う  
（地域によって事情が異なるため、バス停の作り方は入念な検討が必要）
- **ここに意見が集中**

### ③ 1学年2～4学級（3校を基本とする水準）